

分類：臨床医学Ⅴ(CC1)

授業科目名：病理臨床実習（Diagnostic and Anatomic Pathology）

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-24

1. 主任教員

大森 泰文（教授、分子病態学・腫瘍病態学講座、6059）

後藤 明輝（教授、器官病態学講座、6062、オフィスアワー：月・木曜日全日（第二病理））

2. 担当教員

大森 泰文（教授、分子病態学・腫瘍病態学講座、6059）

後藤 明輝（教授、器官病態学講座、6062、オフィスアワー：月・木曜日全日（第二病理））

南 條 博（病院教授、病理部、6182、オフィスアワー：通常は勤務時間帯）

吉 田 誠（講師、器官病態学講座、6064、オフィスアワー：火・木・金曜日 9-17 時（第二病理医局））

廣 嶋 優 子（助教、病理部、6200）

鈴木 麻 弥（助教、分子病態学・腫瘍病態学講座、6061）

小 山 慧（助教、器官病態学講座、6064、オフィスアワー：火・木・金曜日 9-17 時（第二病理医局））

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. 授業の概要及びねらい

- ・実習を通じて病理診断学に対する理解を深める。
- ・関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療法（医療制度）、ゲノム医療に対応する検体の扱い方について説明できる。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

医師として最低限身につけるべき病理組織診断学を習得する。

病理示説は、旧第一病理と第二病理とが交互に担当し、各グループ毎に剖検例、生検例について検討する。（3-1～3-4，4-1～4-7）

剖検例では臨床（主訴、徴候と症状、臨床検査成績、臨床経過、臨床診断、治療など）と病理（剖検材料の肉眼的所見、病理組織学的所見、特殊染色や免疫染色の適用など）との関連から疾病の本態、臨床診断の当否や治療効果の如何などについて検討を行う。（2-1～2-8，3-1～3-7，4-1～4-8）

生検例の場合、適切な病理診断に加え、手術適応や予後との関連についても検討する。（3-1～3-4，4-1～4-8）

病理部においては手術組織における病変の読み方、切り出し方、術中迅速診の実際などについても習得する。（3-1～3-4，4-1～4-8）

分子診断と分子標的治療（臨床腫瘍学の立場から）について理解する。（4-1～4-8，5-1～5-5）

生命科学の講義・実習で得た知識を基に、診療で経験した病態の解析ができる。（1-1～1-2，3-1～3-8，4-1～4-8，5-1～5-5）

患者や疾患の分析を基に、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。（3-1～3-7，4-1～4-8，5-1～5-5）

病理解剖、法医学解剖（司法解剖、行政解剖、死因・身元調査法解剖、承諾解剖）を説明できる。（1-1～1-2）

病理解剖の医療における位置づけと法的事項、手続きを説明できる。（1-1～1-2）

医学における病理解剖の学術的重要性を理解する。（1-1～1-2，6-1～6-2）

病理組織検査、細胞診検査、フローサイトメトリの意義を説明できる。（3-1～3-7，4-1～4-8）

病理診断、細胞診の適切な検体の取扱い、標本作製及び診断過程が説明できる。（3-1～3-3，4-1～4-6）

診断に必要な臨床情報の適切な提供法を説明できる。（2-1～2-8，4-7～4-8）

疾患の病態や疫学を理解する。（3-1～3-7）

患者の入院診療録から臨床上の問題点を列挙できる。（2-1～2-8，4-1～4-8）

病理解剖症例の標本から病態の把握、疾患の診断ができる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5)

臨床経過と病理解剖標本を総合して最終的な死因を類推できる。(5-1～5-5)

研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。(1-1～1-2, 6-1～6-2)

生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。(1-1～1-2, 6-1～6-2)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

5. 成績評価の方法

レポート, 実習態度, 出席率, 積極性

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

・関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、EBM について説明できる。

偶数グループは分子病態学・腫瘍病態学講座(旧第一病理)が担当する。

奇数グループは器官病態学講座(旧第二病理)が担当する。

集合時間 分子病態学・腫瘍病態学講座-9:00 医局(内線 6061)

器官病態学講座-9:00 医局(内線 6064)

病理 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 1 回	月曜日 [ 9:00-17:00 ]	病院病理部の業務の理解と診断過程への参加を体験する。
副題	病理示説	
担当	講座スタッフ	
第 2 回	火曜日 [ 9:00-17:00 ]	剖検例の供覧, 検討。病理解剖症例の臨床事項や検査データを検討し、病態を把握する。
副題	病理示説	
担当	講座スタッフ	
第 3 回	水曜日 [ 9:00-17:00 ]	剖検例の供覧, 検討。病理解剖症例の臨床事項や検査データを検討し、病態を把握する。
副題	病理示説	
担当	講座スタッフ	
第 4 回	木曜日 [ 9:00-17:00 ]	症例の病態についてまとめる。
副題	病理示説	
担当	講座スタッフ	
第 5 回	金曜日 [ 9:00-14:00 ]	症例の病態についてまとめる。病変についての形成試験を行う。
副題	病理示説	
担当	講座スタッフ	